

身近なところでいいことたくさん 校区社会福祉協議会の福祉活動

—ふれあい・いきいきサロン—

ふれあい・いきいきサロン活動とは、身近な小地域(自治会等)を単位として、高齢者や障害者、児童など地域住民とボランティアが一緒に企画し、運営する「仲間づくり」「健康の維持・増進」「生きがいづくり」を進めるための活動です。市内には、こうしたサロンと呼ばれる「集いの場」が260か所以上あります。



みんなで手芸

三潯校区

フリーサロン早友会

そうゆうかい

フリーサロン早友会は、三潯校区の早津崎自治会を中心に、平成29年5月10日に立ち上げました。早津崎老人クラブ会長の松崎嵩廣氏が「早津崎」という地名と、サロンの中では自由で自分の好きな事をして欲しいとの思いから「フリーサロン早友会」と命名しました。自治会が毎月チラシで案内し、第2、第4月曜日の10時から月2回開催しています。

受付後、参加者全員でラジオ体操、その後ニュースポーツの紹介、グループに分かれての脳トレ、卓球、折り紙、書道などをおこなっています。

毎回20人程度が集まっています。参加者は、地域の高齢者の見守りや気軽にできる日常支援もおこなっており、地域での支え合いにつながっています。

市社会福祉協議会では、このような地域の支え合いやサロンを推進しています。

目指すのは 支え合いの 地域づくり

支え合い推進会議研修会

1月30日、えーるピア久留米・視聴覚ホールにて「支え合い推進会議研修会」を開催しました。当日は各校区の「支え合い推進会議」委員や、これから取り組もうとする校区コミュニティ組織、校区社協関係者等、約250人が参加しました。

まずローカリズム・ラボ代表 井岡仁志氏が「支え合い推進会議に期待するもの」と題して講演、住民の支え合いがもたらす効果について、今後の取り組みへの期待を込めて話されました。

続いて、すでに取り組み始めている3校区からの活動報告がありました。それぞれの支え合い推進会議より、西国分校区の荒木征洋



活動報告をおこなう三者

会長、三潯校区の稲田善嗣副会長の両氏からは、校区コミュニティ組織が推進会議に取り組む必要性について話されました。青峰校区の内野壽雄会長からは校区の生活支援事業について、校区の特徴を交えつつ話されました。

参加者からは、「ぜひ取り組みたい」「自分たちの課題である」といった前向きな声がかれました。

市社会福祉協議会では、本年度も推進会議に取り組み校区を支援するとともに、支え合い推進会議についてより多くの市民に知っていただけるよう研修会をおこなっていきます。